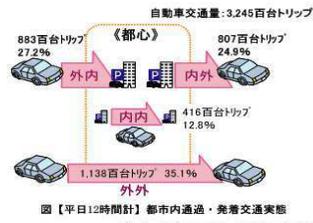


都心部交通量の精査 昼夜率: X/Y ... 一日24時間の交通量とX 昼間12時間(07:00~18:00)の交通量[Y]の比率。全市平均値=1.3

都心部交通量 H11/1999				都心部交通量 H17/2005				都心部交通量 H18/2006			
合計	昼間12時間: 万台/12hr	昼夜率	一日 万台/日	合計	昼間12時間: 万台/12hr	昼夜率	一日 万台/日	合計	昼間12時間: 万台/12hr	昼夜率	一日 万台/日
合計	28.8	1.3	37.44	30.85	32.44	1.3	42.17	32.44	32.44	1.3	42.17
都心部内部				4.13	4.13		5.41	4.13	4.13		5.41
都心部内への流入	20.61		26.79	20.48	20.48		26.62	8.83	8.83		11.48
都心部外への流出								8.07	8.07		10.49
都心部内を通過	8.19		10.85	10.37	10.37		13.48	11.38	11.38		14.79

都心部交通量	通過以外 万台/12hr	通過 万台/12hr	昼夜率	通過以外 万台/日	通過 万台/12hr
合計 H11/1999	20.81	28.8	1.3	26.79	37.44
合計 H17/2005	20.48	30.85	1.3	26.62	40.11
合計 H18/2006	21.08	32.44	1.3	27.38	42.17

●都心外周道路位置図



●近距離での自動車利用の増加

前々回 (S58・1983年) の調査から今回 (H18・2006年) までの自動車利用時の所要時間の分布パターンをみると、10分以下の近距離移動での自動車利用構成比の割合が上昇している。

気軽に車を使う傾向が強まっていると考えられ、CO₂排出量の増加が懸念される。

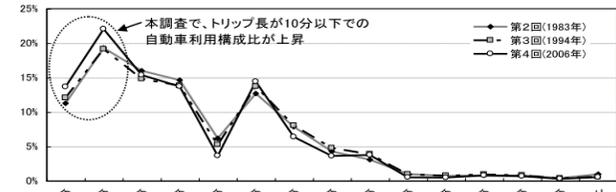


図 4-41 都市圏のトリップ長分布パターンの変化(自動車)

●業務交通の減少が大きい札幌都心

各中心市街の発生集中交通量の変化をみると、高次な商業・業務施設が集積する札幌都心(札幌駅前、大通地区)の発生集中交通量の減少が大きくっており、特に業務目的で、その傾向が顕著となっている。

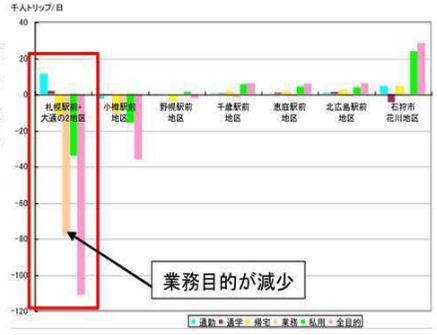


図 4-29 各中心市街地の発生集中量変化 (第3回・第4回調査)

図 4-22 札幌都心部出入交通の内訳

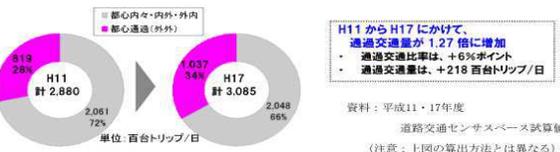


図 4-23 札幌都心部出入交通の推移

(1) 時間帯別発生集中量

都市圏の時間帯別発生集中量は、朝は8時台にピークが発生し、夕方は15~18時台にかけてなだらかなピークが発生している。前回調査と比較すると日中の時間帯別発生集中量の差がなくなっている。

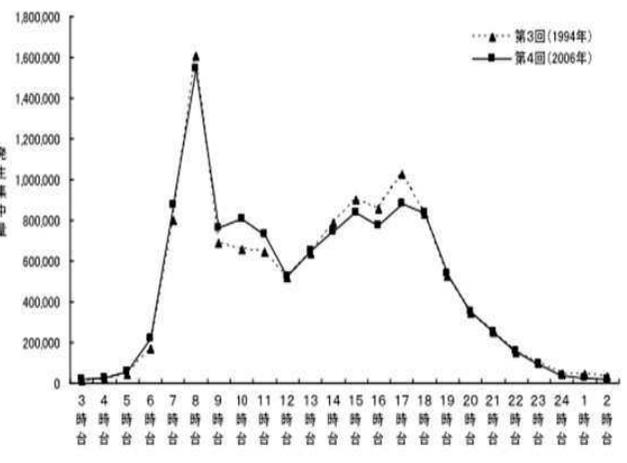


図 3-28 時間帯別発生集中量の推移

(3) 時間帯別発生集中量の目的構成比

朝のピークとなる8時台の発生集中量は、通勤・通学目的が約8割を占めている。また、業務目的割合は早朝で高く、私用目的割合は通勤・通学ピークの後(10時台)で高い。

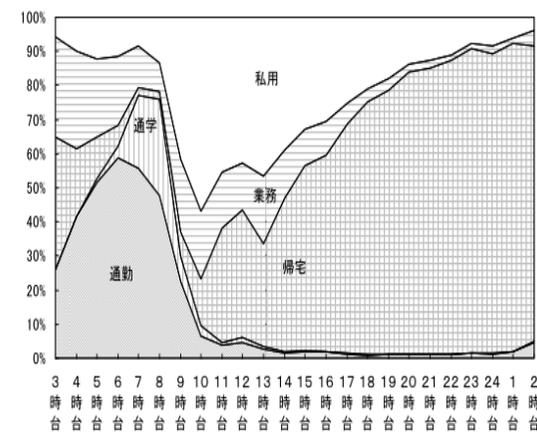


図 3-32 時間帯別発生集中量の目的構成比

(4) 時間帯別発生集中量の代表交通手段構成

時間帯別にみた代表交通手段の構成は、ほぼ1日を通して自動車が最も高い割合を占めているが、8時台・15時台では徒歩・二輪車の割合が自動車の割合に近似している。一方、大量輸送機関は、朝および夕から夜にかけての通勤・通学目的(および帰宅目的)の割合が高い時間帯で利用割合が高い。

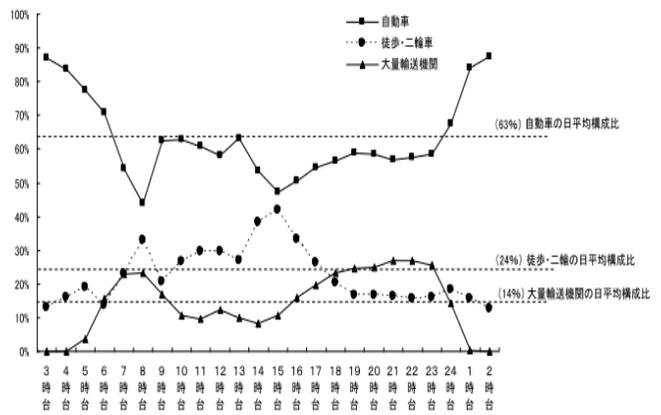


図 3-33 時間帯別発生集中量の代表交通手段構成

(4) 目的別の市区間移動

1) 全手段・通勤

① 現況の市区間移動

通勤目的では、札幌市内の各区間のトリップが多く、特に中央区に向かう動きが多い。周辺市町では小樽市、旧石狩市、江別市、北広島市から中央区へのトリップも多い。

札幌市外への動きは、北区から旧石狩市、手稲区から小樽市、清田区から北広島市が多く、周辺市町では東区市から千歳市へ向かうトリップが多い。

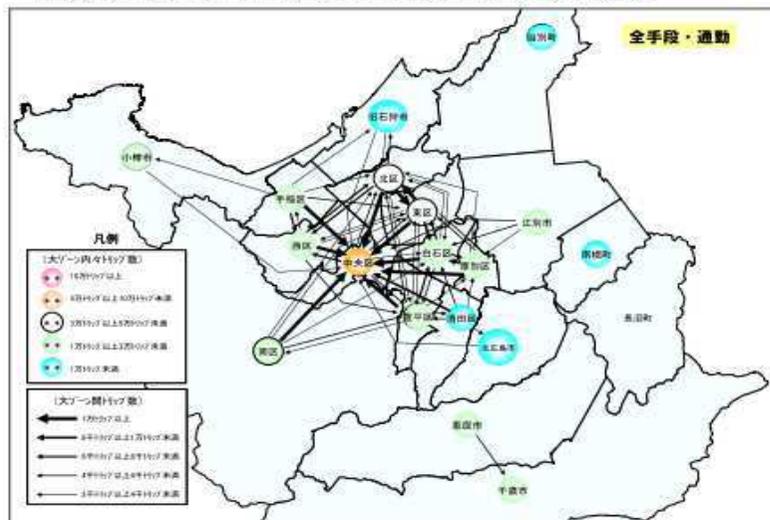


図 3-44 現況の市区間移動の主な動き(第4回調査結果)

注意：第4回調査の市区間トリップ数が2千トリップ/日以上の方のみ表示

② 増加した市区間移動

北区、白石区、豊平区、厚別区、旧石狩市へのトリップが多くなっている。札幌市外へ向かうトリップとしては、北区・手稲区から旧石狩市、手稲区・西区から小樽市、清田区から北広島市が多くなっており、周辺市町では、北広島市から千歳市、小樽市から旧石狩市が多くなっている。

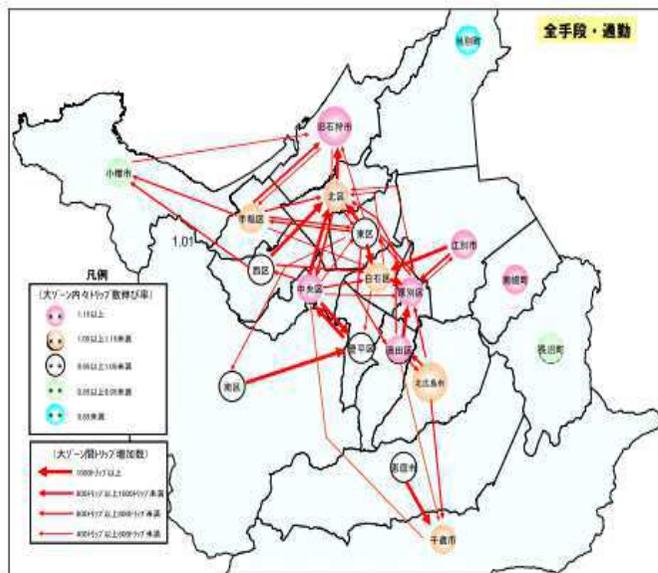


図 3-45 市区間移動の動きが増加した方向(第3回・第4回調査結果)

注意：第4回調査の市区間トリップ数が第3回調査と比べ400トリップ/日以上増加した方向のみ表示

③ 減少した市区間移動

東区、白石区、厚別区、南区、清田区、手稲区から中央区、厚別区から白石区、手稲区から西区へのトリップが減少している。

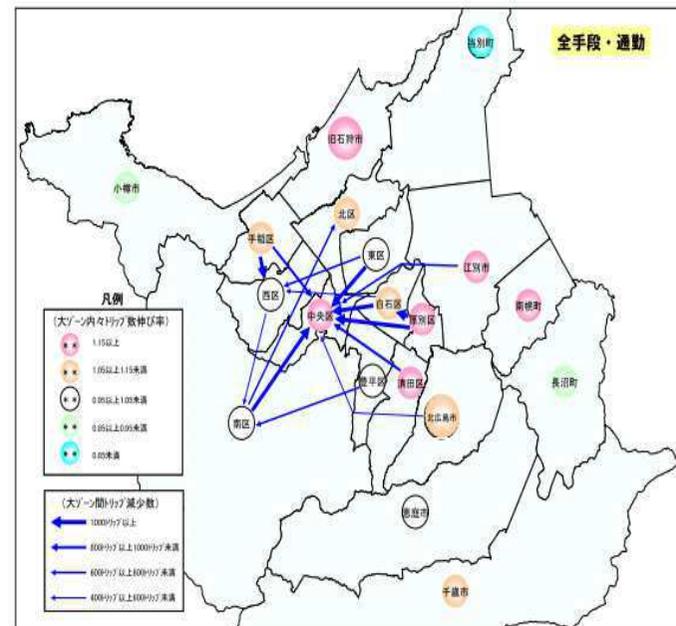


図 3-46 市区間移動の動きが減少した方向(第3回・第4回調査結果)

2) 全手段・通学

① 現況の市区間移動

通学目的では、北海道大学等の立地する北区および北海学園大学等の立地する豊平区へのトリップが多く、その他では中央区へのトリップが多い。

札幌市外へのトリップは、厚別区から江別市へ向かうトリップが多い。

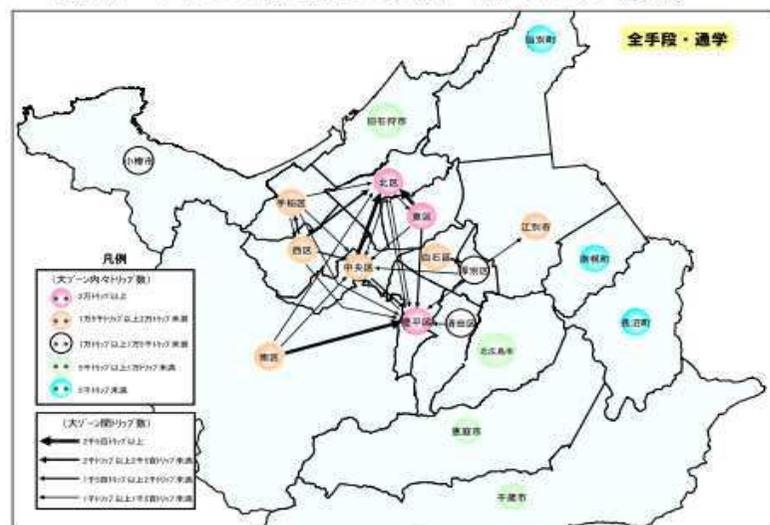


図 3-47 現況の市区間移動の主な動き(第4回調査結果)

注意：第4回調査の市区間トリップ数が1千トリップ/日以上の方のみ表示

② 増加した市区間移動

市町別にみると、江別市へのトリップが増加している。市区間では清田区から江別市、中央区から北区へのトリップが増加している。

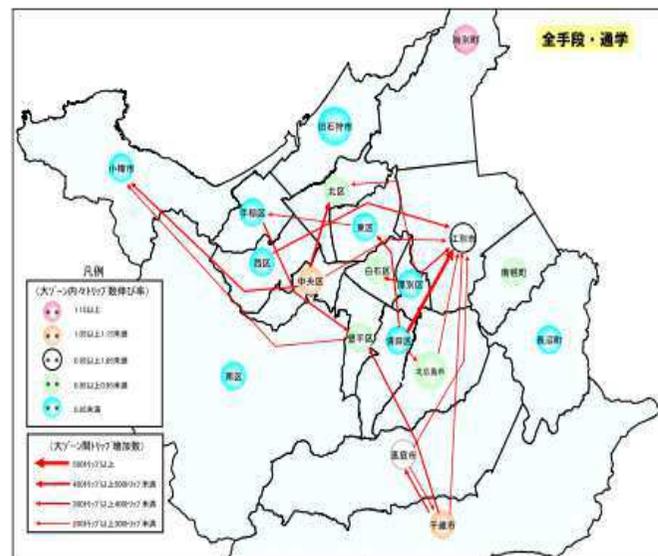


図 3-48 市区間移動の動きが増加した方向(第3回・第4回調査結果)

注意：第4回調査の市区間トリップ数が第3回調査と比べ200トリップ/日以上増加した方向のみ表示

③ 減少した市区間移動

札幌市内の動きが減少している。特に、中央区・南区へ向かうトリップ、豊平区から他区町へ向かうトリップが減少している。

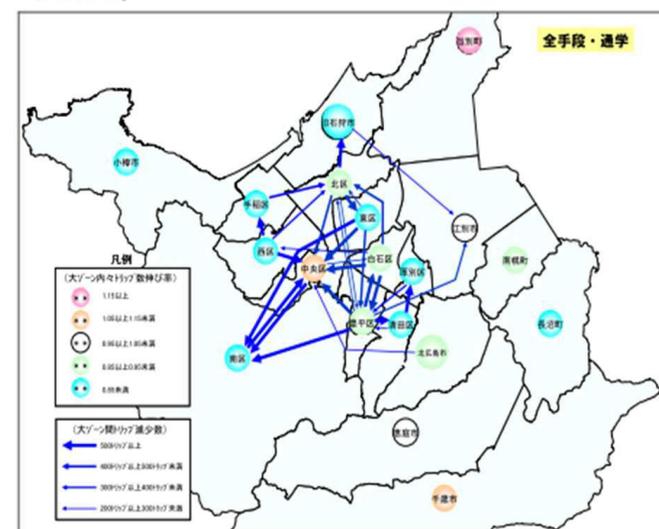


図 3-49 市区間移動の動きが減少した方向(第3回・第4回調査結果)

注意：第4回調査の市区間トリップ数が第3回調査と比べ200トリップ/日以上減少した方向のみ表示

市区町間の動きが減少した方向 (1994年と2006年の比較)

凡例

- | <市区町間> | | <市区町内々> | |
|--------|-----------------|---------|-----------------|
| ↔ | 3000トリップ以上減少 | ● | 3000トリップ以上減少 |
| → | 1000～3000トリップ減少 | ● | 1000～3000トリップ減少 |
| --- | 500～1000トリップ減少 | ● | 500～1000トリップ減少 |

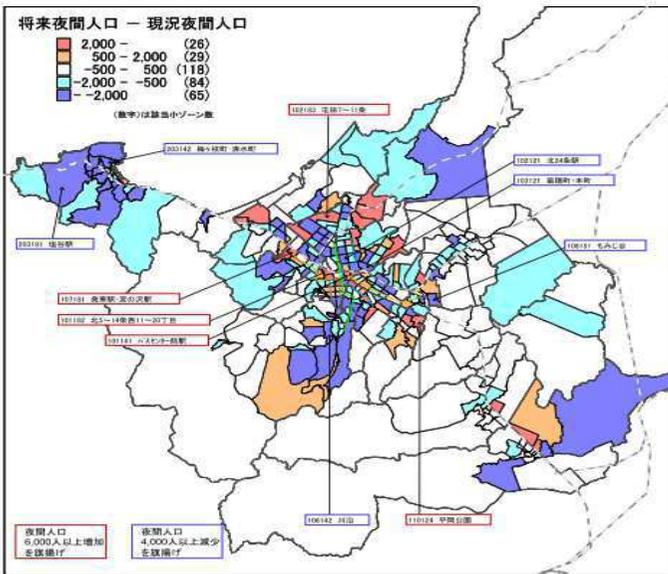
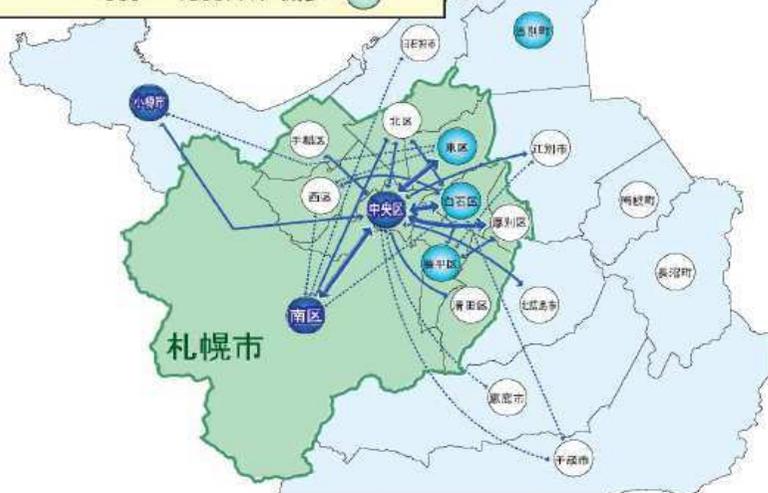


図 2-9 小ゾーン別夜間人口の変化

※現況：国勢調査（2005年）、将来：予測値（2030年）

周辺市町村間 減少方向「希望トリップ数」 H18/2006年 → H42/2030年

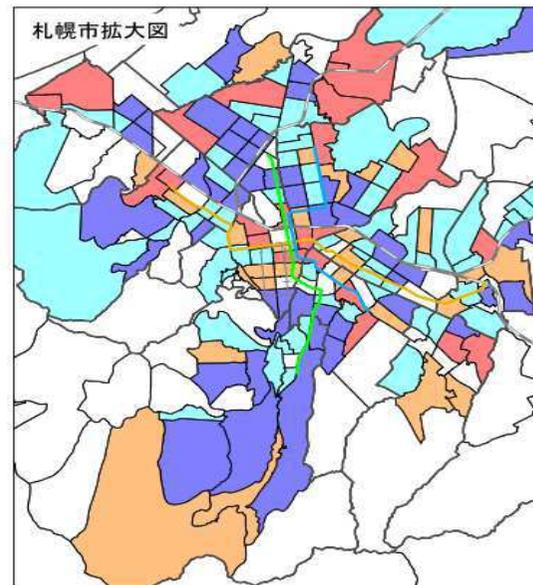


図 2-10 小ゾーン別夜間人口の変化(札幌市拡大図)

※現況：国勢調査（2005年）、将来：予測値（2030年）

資料：道央都市圏パーソントリップ調査

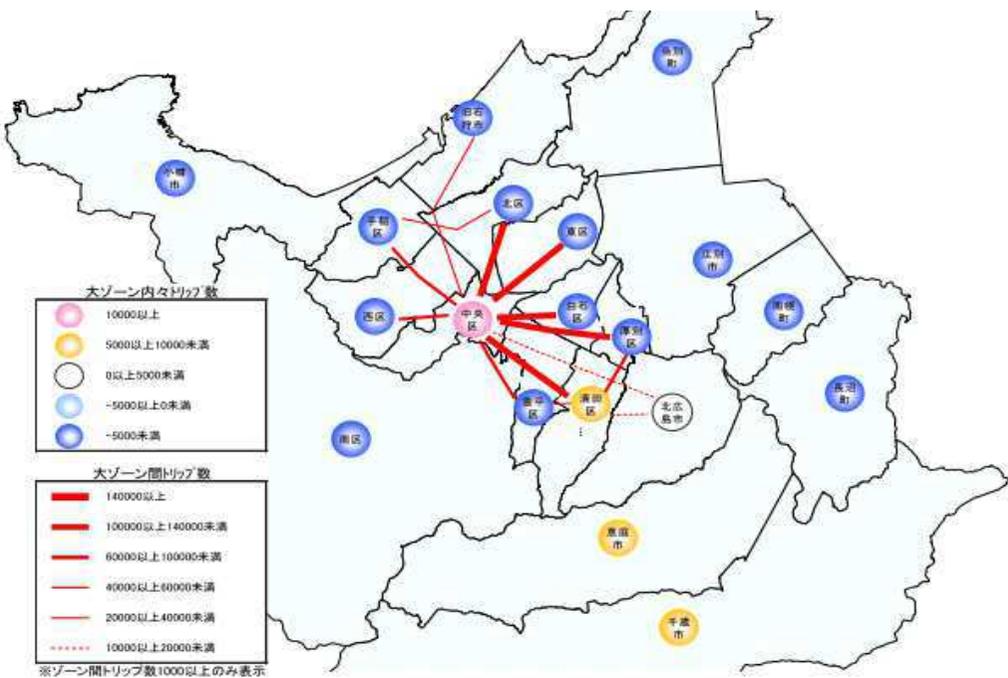


図 5-7 平日全目的の大ゾーン間増加方向希望線図(トリップ数)【2030年-2006年】

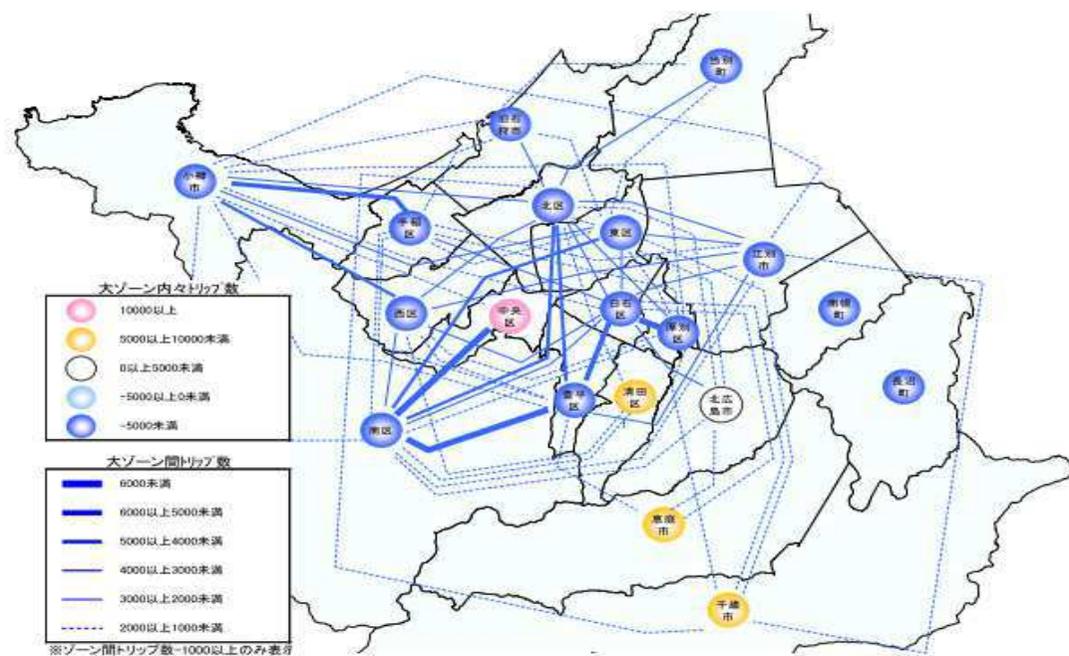


図 5-8 平日全目的の市町間減少方向希望線図(トリップ数)【2030年-2006年】

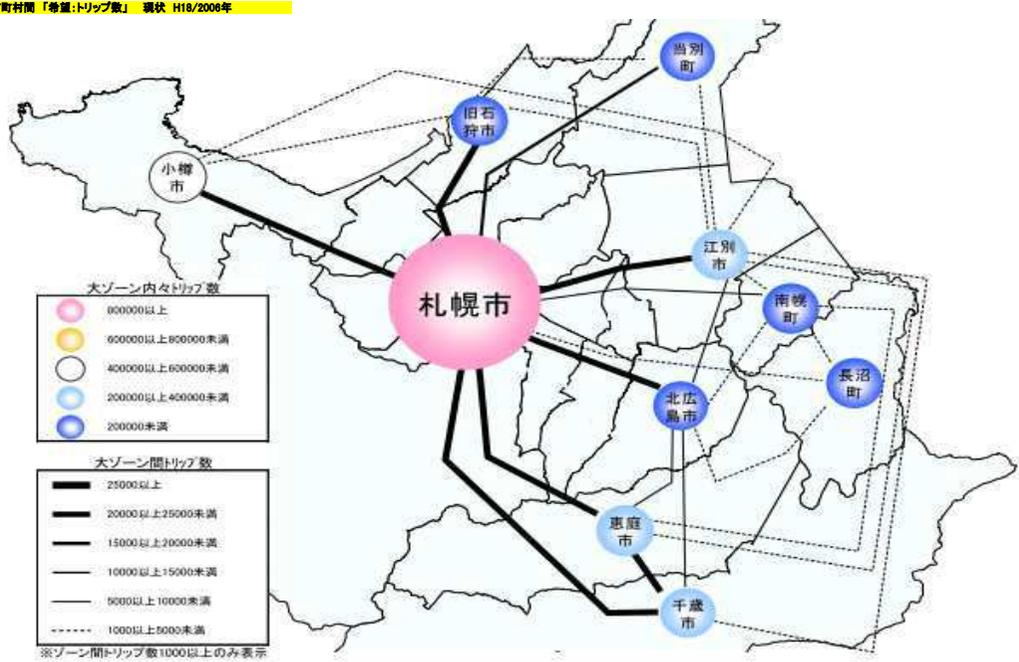


図 5-6 現況(2006年)平日全目的市町間希望線図(トリップ数)

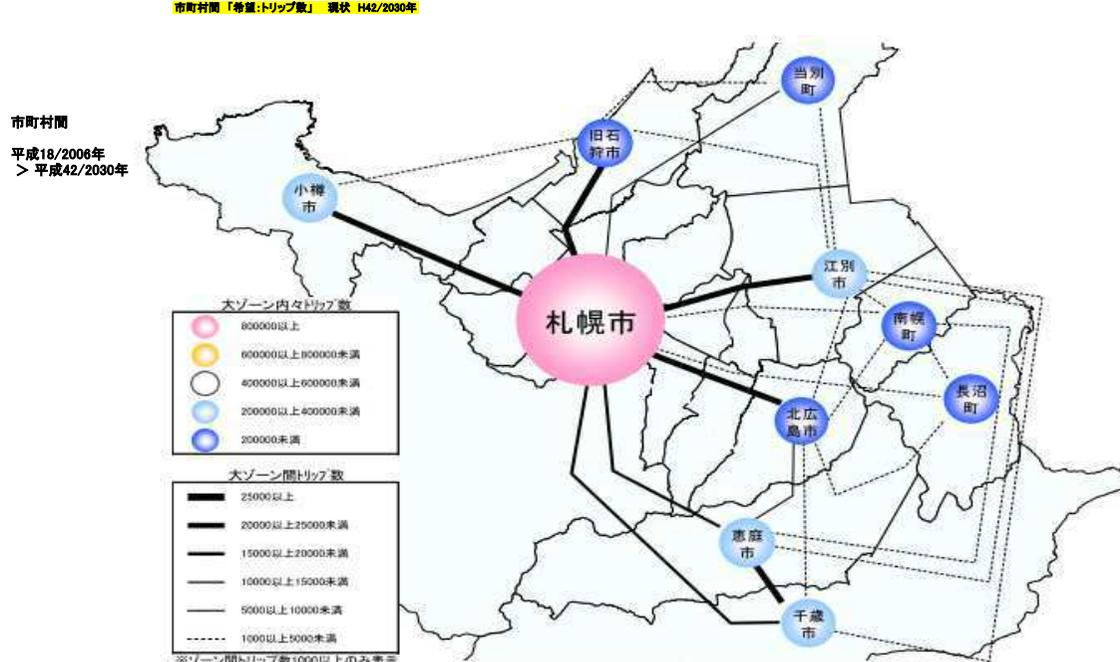


図 5-4 将来(2030年)平日全目的市町間希望線図(トリップ数)

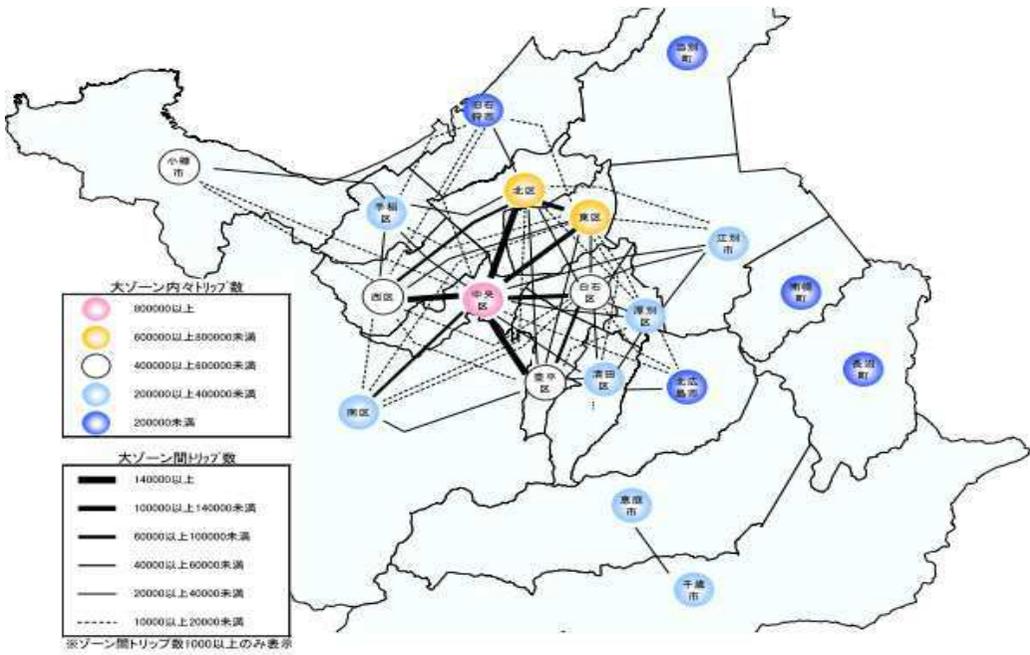


図 5-5 現況(2006年)平日全目的大ゾーン間希望線図(トリップ数)

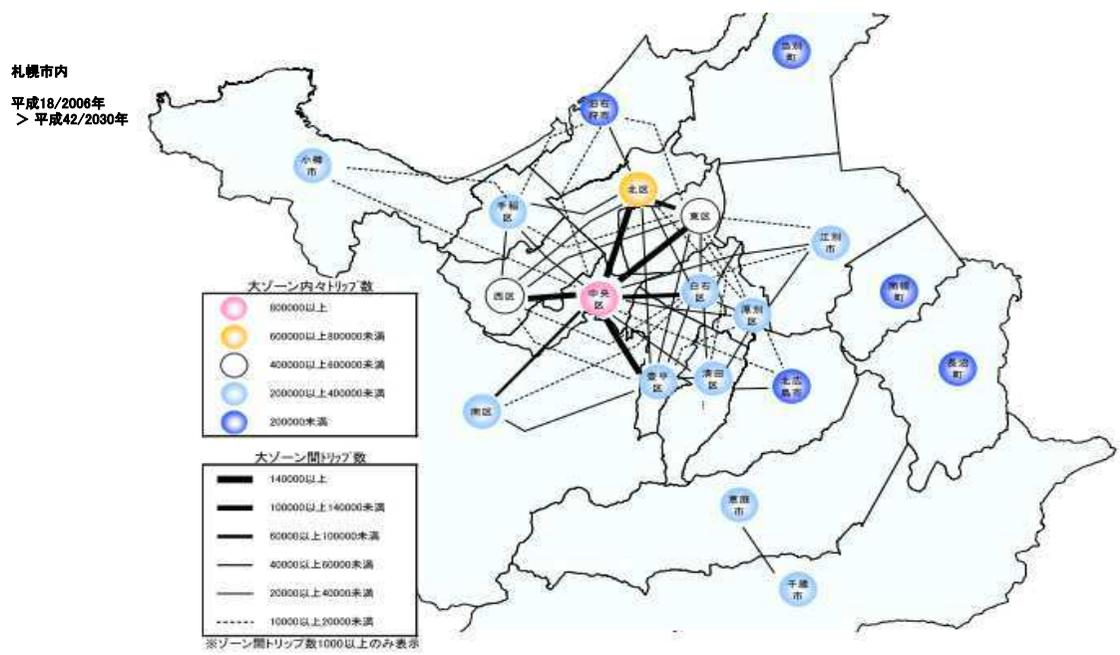


図 5-3 将来(2030年)平日全目的大ゾーン間希望線図(トリップ数)

